

お米の神様ってなあに？

東金市立東小学校

四年

吉野

杏

「米つぶを残さない。お米の神様がおこるよ。」

と毎日、お母さんが言います。私は、小さいころはお米の神様が、
「お米を残すんじゃない。」
と、おこると思っていました。

この作文を書こうと思ったときに、気づいたことがありました。それは、どの季節にも

田んぼに、米農家の人がいることです。苗を植える前からトラクターで田んぼをたがわしたり、水をはって平らにして、植えるじゅんびしていました。苗を植えた後も水の調整をしたり、草とり、ドローンで農薬をまいたりしています。私は、その様子を見て水の調整などむずかしい作業があり、私ならぜったいできないと思いました。それなのに、米農家の人はむずかしい作業もやりとげてすごいなと思いました。

米という漢字は八十八と書いて作られた漢字だとお母さんが教えてくれました。種から収かくするまで八十八回手をかけないと、良のお米ができません。何も考えずに、いつも食べていたご飯は米農家の人が大事に手間、ひま、かけて作ったことが分かりました。だから、私たちは、そのお米を一つぶ、一つぶ、残さず感しやしなから食べなさい。いけないなと思いました。お母さんが、

「お米の神様がおこるよ。」

と言っているのは米農家の人が大事に作ってくれていることを教えてくれたのかなと思います。私はお米の神様はもしかして米農家の人なのかなと思いました。

田んぼに風がふくと緑のイネが風の通り道を教えてくれます。イネとイネがぶつかり合っでサワサワと音になると、ワワワワします。どうしてかというとなりのトトロにでてくるネコバスが通っているのかなと思うからです。私は自分もネコバスが見えたらいいな

と思いました。

これからも、家のとなりの田んぼの景色を
見ながらワクワクしたり、米農家の人の大変
さを考えながらご飯を残さずたくさん食べた
と思います。